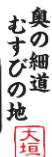


奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

小中学生の部



令和七年二月度 入賞句一覧 投句数 千七百六十六句

特選

高木 佐知子 選

しもやけだ野球の練習したしようこ

大垣市

中村 康誠（小四）

暑い夏も寒い冬も、一生懸命にバットを振る作者の背中が見えるようです。野球が大好きで、練習が苦しいと思うことはあるのではないのでしょうか。季語の「しもやけ」には、かゆいとか痛いとかいうイメージがありますが、寒い中、練習したからこそできたしもやけを「練習した証拠」と胸を張っているようです。歯を食いしばっている根性が、この俳句の主張点になつていて、元氣あふれるかつこいい一句です。

すきま風けんかの種も連れてくる

大垣市

渡部 美響（小六）

季語の「すきま風」とは、窓や戸の隙間から吹き込んでくる寒い風です。些細なことではけんかをしてしまうとどこだつたのでしょうか。すきま風が冷たさと一緒に「けんかの種」を連れてくるという擬人化に工夫があり、季語の意味を自分なりに理解して俳句に生かすことができました。日常生活のふとしたことに着目して俳句に詠むところがよいです。ぜひ、仲直りの一句も詠んでみてください。

おでん食べめがねくもつて大わらい

大垣市

折戸 惺奏（小三）

家族でおでん鍋を囲んで、楽しくご飯を食べているところが想像できます。湯気が立ち上るお鍋をのぞき込んで、大好きな具をお皿にとつて大きな口で一口。その瞬間めがねがくもつて・・・。その後の様子が想像できて、家族みんなで大笑いしたことがよくわかります。「おでん」という季語が五七五の中で生きている俳句です。晩ご飯のどんらんの様子が、こんなふうに俳句に表現できるところが素敵です。明るく楽しい一句です。

秀逸

書き初めを有言実行やりきるぞ

加茂郡川辺町

藤田 唯那（中二）

いちごがりいっぱい食べて顔まっか

大垣市

松岡 奏芽（小二）

いちばんにたおれてみたいゆきの上

大垣市

宮本 ちゆ（小三）

ならんでるてつきんみたいつららたち

大垣市

坂下 椎己（小四）

着ぶくれと言われて平氣寒いもん

大垣市

高田 志穂（小五）

けいとあむきれいにおはなつくれたよ

大垣市

おの りんか（小二）

白い息口からおばけとんでいく

大垣市

吉川 愛桜（小六）

かんげいこきあいでさむさふきとばす

大垣市

にき ひまり（小三）

あみの上すがたをかえるおもちな

大垣市

小川 かのは（小三）

通学路雪でもぼくは半ズボン

大垣市

二村 そうた（小三）

入選

初雪のコースに描く自由の線

あぜ道で探して歩く霜柱

花吹雪一步踏み出す勇氣乗せ

合格へ祈りを乗せて春の風

卒業式終わりのようではじまりだ

かふんとぶくしやみがでるよはつくしゅん

しもやけをおねがいはやくなおしてよ

かきぞめをせいざしながらていねいに

ひなかざりぼくがだいのゆめをみた

水仙といつまでもてるせすじびん

妹のカイロをにぎる真つ赤な手

粉雪のけしようにまとうかなぶ山

朝散歩ふわりとすぎる春の風

こつちだと子らの手を引く桜道

てぶくろはてをあたためるめいじんだ

おしょうがつおもちをかざつてカチカチに

息白し六回とべた二重とび

ふゆやすみひのようじんをにかいする

じんじやのねかい段途中年越しだ

町めざしいぶきおろしがやってくる

小中学生の部

加茂郡川辺町

河合 優菜（中二）

加茂郡川辺町

井澤 陸斗（中二）

加茂郡川辺町

野田 美樹葉（中三）

加茂郡川辺町

渡辺 颯人（中三）

揖斐郡揖斐川町

竹尾 あゆ（小六）

大垣市

岩田 結衣（小二）

大垣市

まえだ かのこ（小二）

大垣市

竹内 実玖（小三）

大垣市

荒谷 桃我（小三）

大垣市

渡部 美柚（小四）

大垣市

鈴木 桃果（小六）

大垣市

加藤 綾人（小六）

東京都足立区

尾針 知晴（小六）

東京都足立区

佐々木 碧唯（小六）

大垣市

とみさわ ふうこ（小二）

大垣市

小ぐら せいじろう（小二）

大垣市

牛田 千絢（小六）

大垣市

吉田 美緒（小三）

大垣市

宗宮 姫和（小五）

大垣市

足立 妃葉（小五）

選者吟

山から里へ春告鳥の声の径

佐知子

